

三項目の提案

大槻 文 平

昭和五十四年十月四日午前十一時、私は大平さんを瀬田のご自宅に訪ね、応接間で対坐していた。私の用件は、わが国の財政再建に関連して実効ある行政改革を進めるための方策について進言することであった。

私は、数年前より行政監理委員会委員長代理を仰せつかっており、行政の在り方についていろいろな角度から検討してきたが、五十五年度予算編成を前にして、当面する最大の課題である行政改革問題について私なりの考え方を直接首相に申し上げておきたいと思い、他の行監委員のご了解も得てご自宅に参上したのであった。

そこで私は、大平さんに次の三項目を進言した。その一は、行政改革は、首相が先頭に立って率先垂範しないと実効が挙がらない。民間会社では業績が悪化すれば、まず社長以下経営陣が給与を減額し範を示すのが通例であり、政府においても、この際まず大臣が給与を一割減額して天下にその気構えを示すべきではないか。

その二は、公務員数の縮減を毎年実施し、五年間で三万五千人減員すると公表されているが、実際には、このほとんどの人員を補充し、実質的な減員数はこの一割にも達しない。このような実態にもかかわらず、減員数だけがマスコミに報道されると国民に誤解を与えることになるので、実質的な減員数を公表すべきではないか。

その三は、経費節減の実効を挙げるため、各省庁に経費の一割を一律に削減するよう指示していただきたい。一律削減とは乱暴だと思われるだろうが、非常時下、国の歳出を減らすにはとりあえずこの方法以外にはないので、首相から経費一律削減の号令をかけてほしい。

私がこの三項目について進言している間、大平さんはじつと耳を傾けておられたが、私が話し終ると直ちに、「お話の趣旨はよく判った。一についてはよく考えた上で実行に移したい。二についてはご提案通り実施しよう。三については五十五年度予算のなかで、ご提案の趣旨を生かすようにしたい」と返答され、さらに言葉を継いで「財政再建を進めるためには今が非常に大事な時であり、チープ・ガバメントに徹するための基礎固めをしなければならぬ。自分もチープ・ガバメントの実現を推進してまいりたいと考えているので、行政監視委員会としてもよろしくご協力をお願い致したい」と述べられた。

このあと大平さんは、折からの総選挙応援のため埼玉方面に出向かれるとのことで、このような固い話を交したただけでお別れしたが、思えば、大平さんと親しくお言葉を交した最後のこととなった。もちろん、その後も春芳会の席上などでは二、三度お目にかかつてはいるが。

その折の総選挙では、大平さんの懸命のご奮闘も及ばず、思わしくない結果に終わったが、その後、国会での思わぬハプニングから昨年六月再度総選挙を行うこととなり、自民党が大勝利を得たのは周知の通りであり、大平さんがその結果をまたずに不帰の客となられたことは、まことに残念に存する次第である。大平さんは、政治家としては珍しく言挙げしない寡黙の人であり、哲学的な深みを持ったお人柄は、政界のなかでも燦し銀のような特異な光彩を放っていたように思う。

その大平さんが現職の首相として業途中で倒れたのは惜しんでも余りあるものがあるが、大平さんが一死をもつて自民党に大勝をもたらしたことは、一身をなげうって国を救ったものであると考えると、差支えないであらう。人間誰でもがいつかは現役を退く時があることに思い至れば、大平さんの退き際は政治家にふさわしく、まことに劇的であり、華々しい花道であったと思わざるを得ない。